

霜降織	一本	三四二十錢
絹紬織	一本	九十錢ヨリ一圓三十八錢マテ
寧波布	一本	二圓三十錢ヨリ二圓八十錢マテ
膠布	一本	二圓三十錢ヨリ四圓五十錢マテ
白木綿	一反	六十錢ヨリ一圓二十錢マテ
朝鮮木綿	一疋	九十五錢ヨリ九十七錢マテ
納戸木綿	一反	九十錢ヨリ一圓三十錢マテ
無地織	一反	七十五錢ヨリ一圓十五錢マテ

(十二) 輸出先ニ於ケル用途并ニ需用程度及需用者ノ階級

清、韓ニ輸出スルモノハ主トシテ服地ニ用ヒ被面ハ夜具ニ用ユ服地ハ各階級ヲ通シテ使用セラル、モ被面ハ中流以下ニ需要セラル而シテ中流向キ被面ハ紋織ノモノ多ク下流ニハ主トシテ格子縞ノ安物ヲ用フト云フ

(十三) 荷造法及其費用并ニ運賃諸費

鉄力箱又ハ亞鉛板ノ箱ニ容レ其上ヲ八分板木製箱ノ二重トシ其外部ヲ葎ニテ包ミ之ニ鐵帶ヲ施ス其荷造費一個ニ付約四圓五十錢ナリ運搬費ハ上海迄被面布一枚ニ付六厘其他ハ一反ニ付一錢二厘ヲ要ス

(十四) 輸出先ニ於ケル代用品及競争品

清國杭州、温州ニ於テ製造スル絹綿交織ノ被面アリ價格ハ一枚(巾一尺三寸、長五尺)七十錢内外ニシテ本邦品ニ代用セラル、モノナリ

(十五) 主ナル製造者及取扱商店

製造者

羽島郡松枝村	岩田榮助
同郡笠松町	高島嘉七
同郡八劍村	渡邊六右衛門
同郡同村	渡邊久次郎
同郡笠松町	淺野増次郎
同郡同町	村井嘉右衛門
同郡同町	柴田新兵衛
同郡竹ヶ鼻町	小見山榮次郎
同郡同町	大澤善左衛門
同郡同町	森伊助
同郡同町	横井辰次郎
同郡同町	江口榮次郎
同郡同町	太田辰次郎
同郡小熊村	井上新吉
同郡福壽村	
取扱商店	
羽島郡笠松町	田中善次郎
同郡同町	田中善兵衛
同郡同町	林鐵次郎

岐阜縣

羽島郡竹ヶ鼻町  
同郡同町  
稻葉郡茜部村

丹羽清助  
後藤專七  
石川儀平次

(十六) 事業上ノ施設

縣ニテハ染織擔任ノ工業技師ヲ置キ染織ノ實地指導ニ當ラシメ同業組合ニテハ製品ノ改良販路ノ擴張ヲ圖レリ又特ニ被面ニ付テハ三十八年十二月縣令ニ發布シ染色ノ取締ヲ爲セリ

(四) 陶磁器

(一) 產額  
年次 產額  
三十五年 九三六、二一五<sup>〃</sup>  
三十六年 八八九、六九二  
三十七年 八五七、〇三〇  
三十八年 一、二九七、三七三  
三十九年 二、七一三、五五四

(二) 種類

德利壺、奈良茶碗、煎茶碗、急須、皿類、珈琲碗、蓋物、盃、口嗽、湯呑、盃洗、花瓶、

猪口、狹器具、

(三) 主要產地

七岐郡、惠那郡、可兒郡ニシテ其他大野郡、不破郡、岐阜市トス

(四) 沿革

本縣ニ於ケル陶磁器工業ノ起源ハ甚々遠ク延喜式ニ美濃ヨリ種々ノ陶器ヲ貢獻スルノ定メアルヲ以テ見レハ其以前ヨリ行ハレタルヲ知ルヘシ其後加藤四郎右衛門ナル者道元禪師ニ從フテ入唐シ終ニ尾張國春日井郡ノ東極(現今瀬戸町)ト本縣土岐郡ノ國境ナル山原地方ニ至リ祖丹懷ニ類スル土石ヲ發見シ此ニ陶業ヲ始ムト云フ其孫加藤四郎右衛門景延ナルモノ始メテ久尻(現今泉村ノ一部)ニ來リ其技ノ巧妙ヲ以テ其名世ニ高ク嘗テ器物ヲ時ノ將軍織田信長ノ覽ニ入レ褒賞トシテ御朱印ノ書ヲ下賜セラレ又久尻ノ住人加藤某白製ノ陶器ヲ朝廷ニ獻納セシニ深ク其妙技ヲ賞シ是レヲ筑後守ニ任シ名ヲ藤原景延ト賜フ爾來景延ノ子孫繁衍シテ多治見、市之倉、妻木、下石、駄知、其他ノ諸村ニ分住シ陶業漸ク盛ナルニ至レリ元祿年間ニ至リ窯株ノ制ヲ定メラレ御冥加永ト稱シテ僅少ノ税ヲ課セラル其株二十四通アリ後笠松郡代鈴木紋三郎在職ノ時ニ於テ少シク増營シテ新株四通ヲ增加セリ又惠那郡大井ニ窯株四通アリテ文政年間多治見町西浦圓治之ヲ讓受ケ都合三十二通トナル外ニ妻木、駄知村ニ窯三基アリキ明治維新ノ際其制廢セラレ漸次各地ニ窯數ヲ増シ技術モ亦大ニ進歩シ今ヤ本邦屈指ノ製陶地トナルニ至レリ

(五) 製造戸數及職工數 (三十九年)

製造戸數 一、一〇六戸  
職工數 男 四、〇三九人  
女 一、九〇八人

(六) 製産状況

本縣ニ於ケル陶磁器製造業ハ總テ舊慣ニヨルモノニシテ歐、米ニ於ケル新式製造法ニヨレルモノナシ而シテ本業ノ最近ニ於ケル狀況ヲ見ルニ日露開戦ノ當時ハ内地向、支那向品ハ一時ニ打撃ヲ受ケ需要著シク減退シテ製品ハ空シク庫中ニ堆積シ不況ヲ呈セシカ只之レ戰爭ニ伴フ一時の現象ニシテ其後提報至ル毎ニ景氣次第ニ恢復シ殊ニ三十九年ニ於テハ注文頻々トシテ來リ頗ル盛況ヲ呈シ前途益々發達ノ域ニアリ

(七) 原料ノ需要供給

原料ハ頗ル豊富ニシテ生産地至ル處ニ産出シ他地方ニ輸出スル量モ亦少カラスト云フ然レトモ燃料ハ産地附近ニ乏シキヲ以テ之レヲ他地方ニ仰ケリ

(八) 製産費及收益ノ比較

製品一點ノ代金拾圓ニ對シ製造費六、七圓ヲ要シ其純益ハ凡ソ三、四圓内外ナリト云フ

(九) 販出額及仕向地

明治三十八年ニ於ケル内國向販出額ハ百六十七萬餘圓ニシテ内國各府縣ニ販出シ外國向ハ百八萬五千餘圓ニ上リ清、韓及米國へ輸出セリ

(十) 販賣手續及取引慣習

製造業者ハ一時ニ多數ノ取引ヲ爲シ能ハサルニ依リ土岐郡多治見町ニ其製品ヲ集注シ同地商人ノ手ヲ經テ名古屋、大阪又ハ神戸地方ノ商人ト取引ヲ爲スノ例ナリ

(十一) 相場

普通製品ノ相場ハ大要左ノ如シ

德利	一個ニ付	貳	錢
奈良茶碗	同	貳	錢
煎茶碗	同	八	厘
皿	一枚ニ付	貳	錢
急須	一個ニ付	貳	錢五厘
口嗽	同	四	錢
珈琲碗	一打ニ付	五	拾錢
湯呑	一個ニ付	參	錢
蓋物	一組ニ付	拾	六錢
盃洗	一個ニ付	拾	錢
盃	同	六	厘
猪口	同	參	錢五厘

(十二) 輸出狀況

輸出ハ近來甚タ好況ニシテ注文ノ數額ヲ製造シ難キ狀況ニアリ本縣ヨリ直輸出スルモノ稀ナルモ清國大連、遼陽、奉天、上海、香港、米國、ボストン市等ニ出張店ヲ設ケ居ル者數名アリ多クハ之等ヲ介シテ輸出シ居レリ

(十三) 輸出先ニ於ケル用途並ニ需要程度及需要者ノ階級

歐米向ノモノハ多ク花瓶、置物又ハ飲食器ノ類ニシテ主トシテ上流向ノ需要ナリト云フ而シテ清、韓向ニ至リテハ其

需要ノ程度上、下ノ差異ナク食器ノ需要ニ過キサルモノ、如シ

(十四) 荷造法其費用

荷造法ハ箱詰及葉包ノ二種トシ上等品ハ葉包ヲナシタル上更ニ箱詰トシ中等品以下ハ葉包トナス箱ハ大箱ト石油箱トアリ石油箱ハ之レヲ二個合シテ一箱ト稱ス各荷造費ハ約四拾五錢ニシテ葉包ハ四俵ヲ以テ一駄ト云ヒ此荷造費ハ八拾錢乃至壹圓貳、參拾錢ヲ要ス

(十五) 長所、缺點並ニ改良スヘキ要點

價格ハ廉ナルモ製品ノ整一ナラサルト脆弱ナルコトハ本品ノ缺點タリ從テ原料ノ配合及窯ノ築造ニツイテ充分ノ改良ヲ要ス

(十六) 主ナル製造者及内、外國ニ於ケル主ナル取扱商店

土岐郡多治見町	加 藤 助 三 郎
同 郡 同 町	西 浦 圓 治
同 郡土岐津町	青 木 達 四 郎
同 郡多治見町	加 藤 久 次 郎
同 郡 同 町	齋 藤 政 七
同 郡 同 町	昆 野 新 七
同 郡 同 町	籠 橋 休 兵 衛
同 郡多治見町	多 治 見 貿 易 合 資 會 社
惠那郡陶村猿瓜	曾 根 猪 之 助

同 郡 同 村	曾 根 熊 次 郎
同 郡坂本村茄子川	成 瀬 誠 志

外國ニ於ケル取扱商店

清國大連、遼陽、奉天	青 木 達 四 郎 出張店
清國天津	林 連 一 郎
同 大連、奉天	加 藤 松 次 郎
同 上海	日 比 野 新 七 出張店
同 香港	加 藤 録 三 郎
韓國平壤	松 原 芳 九 郎
米國ボストン市	多 治 見 貿 易 合 資 會 社 出張店

(十七) 事業上ノ施設

重要物産同業組合法ニ依リ土岐郡、可兒郡ノ區域ヲ以テ同業組合ヲ設置シ營業上ノ改善ヲ圖レリ又明治三十五年六月土岐郡土岐津町ニ郡立陶器學校ヲ創設シ文明的徒弟ノ教育ヲナセリ而シテ其最近一ケ年ノ經費ハ七千三百圓ニシテ生徒ノ數ハ本科五十二人別科二十二人豫科七人合計八十一人ナリト云フ

(五) 和 紙

(一) 産 額

岐阜縣

年次	數量	價額
三十五年	?	一〇四九、五九四
三十六年	?	一〇七三、六五三
三十七年	?	一〇三七、三三一
三十八年	二七八、八四〇	一、〇〇三、八四一
三十九年	三二七、六五〇	一、二〇〇、〇〇〇

(二) 種類  
 書院紙 典具帳 雁皮紙(コッビー紙) 東洋紙 森 下  
 薄葉 櫻紙 製圖紙 朝鮮紙

(三) 主要産地  
 山縣郡 武儀郡

(四) 沿革  
 美濃紙ノ起原ハ遠ク建久年中ニ屬シ鎌倉幕府ノ時鎮守府將軍河内守源賴信十世ノ孫太田縫殿助信綱ナルモノ名ヲ宗九郎ト改メ武儀郡牧谷上野村(現今上牧村大字上野)ニ居ヲトシテ抄紙ノ業ヲ營ム是レ本縣ニ於ケル製紙業ノ嚆矢ナリト云フ爾後製造者モ追々増加シ抄紙術ノ改良ト共ニ世ノ信用ヲ博シ美濃紙ノ名聲ヲシテ海内ニ噴々タラシメタリ輓近ニ至リ技術一層發達シ前記ノ如ク各種ノ紙ヲ製出シ内地各地ニ販售スルノミナラス滿、韓地方ニ輸出スル額亦少ナカラサルニ至レリ

(五) 製造戸數及職工數 (明治三十九年)  
 (イ) 家内工業

製造戸數	四、一六〇戸
職工數	一二、六四〇人
(ロ) 工場作業	
工場數	五ヶ所
職工數	二五〇人
馬力(蒸氣器械數三個四十八馬力)	

(六) 製産狀況  
 本業ハ山間ニ於ケル農家ノ餘業ニ屬シ主産地方ハ全村殆ント毎戸製紙ニ從事シ斯業甚タ盛ンナリ其製品ハ獨リ内地向ニ止マス海外へ輸出セラレ、モノ亦尠ナカラスシテ年々多少製産増進ノ趨勢ニアリ然レトモ近年製紙原料ノ騰貴ト共ニ事業甚タ困難トナリ當業者一般困難ヲ感シツ、アリト云フ

(七) 原料ノ需要供給  
 近年蠶業ノ發達ニ伴ヒ紙原料ノ栽培地面ハ漸次桑園トナルヲ以テ今ヤ縣下生産ノ原料ハ消費高ノ凡ソ二割ニ過キス八割ハ高知、愛媛、島根ノ各地方ヨリ供給ヲ受クル有様ナリ是ヲ以テ近時縣ニ於テハ夏秋養蠶期ニ於ケル桑樹皮ヲ以テ之ニ代用シ以テ其不足ヲ補ハントシ試驗中ニ屬セリ其結果ハ未タ詳カナラサルモ着々有望ノ成績ヲ收メツ、アリト云フ

(八) 製産費及收益比較

種別	製造費				内		純益
	員數	賣價	原料	藥品	工賃	燃料用品	
本生典具帖	5,000	11,500	10,000	1,000	9,500	6,000	1,000

本生書院(美濃紙)	四、八〇〇	二、三〇〇	一、四二五	七六〇	五、四九〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	二、二八〇	一、七〇〇
薄葉(コッビー紙)	五、〇〇〇	二、〇〇〇	一、二五〇	六〇〇	六、四二五	四、五〇〇	一、〇〇〇	一、八九五	二、〇〇五
森下紙	五、〇〇〇	二、九〇〇	二、〇六〇	七〇〇	五、八二五	六、三〇〇	三、〇〇〇	二、八〇五	一、一五〇
櫻紙	五、〇〇〇	一、八〇〇	八七五	〇、四二五	七、五〇〇	〇、三〇〇	〇、〇〇〇	一、七三〇	〇、〇〇〇

(九) 販出額及仕向地

紙ハ縣下ニ於テ消費スル額ハ僅少ニシテ製造高ノ殆ント全部ハ縣外ニ販出ス内地ノ仕向地ハ名古屋、東京、京都、大阪、金澤等ヲ始メトシ其他ノ各地ニ販出セラレ海外輸出ニアリテハ英、米、獨ヘノ輸出ハ横濱港ヲ經滿、韓ヘハ大阪又ハ神戸港ヲ經テ輸出セラル今内外ヘノ販出額ヲ示セハ左ノ如シ

内 國 向	數 量	價 額
外 國 向	數 量	價 額
	九七、三〇〇 締	三五〇、〇〇〇 圓

(十) 販賣手續及取引慣習

製造者自ラ卸小賣ヲ爲ス者アリ又仲買商ニ賣却スル者アリ中ニハ東京、京都ノ當業者ニ委託シテ販賣スル者アリ海外輸出ハ横濱、神戸、大阪ニ於ケル輸出商ニ販賣スルヲ例トス

(十一) 相 場 (明治四十年七月初旬)

品 名	數 量	賣 價
美濃紙本生書院	四、八〇〇 <sup>枚</sup>	二、三〇〇
コッビー紙	五、〇〇〇	二、一〇〇
雁皮紙薄葉	五、〇〇〇	二、二、五〇〇
本生典具帖	五、〇〇〇	二、九、二〇〇
森 下 紙	五、〇〇〇	一、八〇〇
櫻 紙	五、〇〇〇	

(十二) 輸 出 狀 況

内地向輸出額ハ年々著シキ増減ナシト雖モ海外輸出品ハ時々著シキ高下アリ殊ニ三十八年以來ハ滿、韓ヘノ輸出劇增セリ而シテ輸出品ノ種類ハ滿、韓ヘハ東洋紙、朝鮮紙等ヲ主トシテ英、米、佛ヘハ雁皮紙、典具帖最モ多ク何レモ海外ニ於ケル需要ハ逐年増進ノ傾向ニアリト云フ

(十三) 輸出先ニ於ケル用途需要程度及需要者ノ階級

東洋紙ハ重ニ包紙トシテ用ヒラレ朝鮮紙ハ窓張用トシテ滿州人ニ使用セラレ典具帖ハ貴重品ノ包紙及(デンタルペーパー)トシテ齒科醫之ヲ用フ雁皮紙(コッビーインクペーパー)ハ雁寫用トナスノ外南清ニ於テ茶商ノ其屋號ヲ印シ茶箱ヲ包装スルニ多ク用ヒラルト云フ

(十四) 荷造法其費用並ニ運賃諸費及保険料

荷造ハ品種ニ依リ一定セスト雖モ凡ソ十貫目ヲ一括トシ板ニテ狹ミ其外部ヲ莖又ハ菰ニテ包ム此荷造費一個ニ付金貳拾錢乃至五拾錢ナリ

製品ハ產地ヨリ岐阜市ニ送り瀛車便ヲ以テ輸送ス瀛車運賃ハ岐阜驛ヨリ東京届先迄一貫目ニ付參錢特ニ速達ヲ要スル

モノハ四錢五厘ナリ保險料ハ壹圓ニ付七錢ヲ普通トス(紙輸送ニ付テハ保險ヲ付スルハ極メテ稀ナリ)

(十五) 長所、缺點並ニ改良スヘキ要點

縣下ノ手漉紙ハ他ノ地方ニ比シ多ク優等紙ヲ出ス殊ニ書院紙ハ天下ニ冠タリ圖引紙、薄葉、森下等モ亦各特技ヲ有セリ

(十六) 主ナル製造者及取扱商店

製造者

- 武儀郡上有知町
- 同 郡同町
- 同 郡下牧村藤生
- 同 郡同村同
- 同 郡上牧村上野
- 同 郡大矢田村
- 同 郡同村
- 同 郡下牧村神洞
- 武儀郡同村長瀬
- 同 郡上牧村御手洗
- 同 郡同村同
- 同 郡南武藝村跡部
- 同 郡洞戸村

- 合名會社須田商會
- 合資會社富田川商會
- 古 田 宗 五 郎
- 古 田 彦 四 郎
- 船 戶 利 三 郎
- 別 府 宮 松
- 上 野 久 之 助
- 岩 原 磯 八 郎
- 武 井 馬 之 助
- 幅 政 右 衛 門
- 幅 市 郎
- 小 石 吉 太
- 松 田 松 次 郎

取扱商店

- 同 郡東武藝村半
- 同 郡同村同
- 山縣郡富波村青波
- 稻葉郡加納町
- 岐阜市玉井町
- 同 市中新町
- 同 市湊町
- 同 市米屋町
- 同 市東材木町
- 同 市玉井町
- 同 市同町
- 武儀郡上牧村
- 同 郡乾村
- 同 郡上牧村
- 同 郡乾村
- 同 郡上有知村
- 同 郡

- 北 瀬 三 四 郎
- 林 嘉 右 衛 門
- 木 村 國 次 郎
- 製 紙 株 式 會 社
- 松 井 三 次 郎
- 武 井 助 右 衛 門
- 深 尾 庄 吉
- 正 村 平 兵 衛
- 松 原 周 助
- 宮 部 平 助
- 遠 藤 理 助
- 太 田 利 三 郎
- 山 口 平 兵 衛
- 太 田 善 九 郎
- 山 口 兼 太 郎
- 今 井 兵 四 郎
- 須 田 商 會

岐阜縣

武儀郡  
同郡上有知村

合資會社 富田川商會  
村井半七

(十七) 事業上ノ施設

縣ニ於テハ製紙擔任ノ技師一名、製紙調査嘱托員一名ヲ置キ製紙術ノ改良指導ニ當ラシメ同業組合ニ於テハ検査員十數名ヲ置キ製品ノ検査ヲ爲シ又試驗場ヲ設置シ縣工業技師指導ノ下ニ各種ノ試驗ヲ爲セリ

(六) 紙製品

(一) 産額

種類	三十五年		三十六年		三十七年		三十八年		三十九年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
雨傘	二〇六九五	六五〇八四	二六〇一〇	七七一五〇	一八三二七〇	四一九九六	四三三〇三	一〇二二〇	三三九一五	七六五五九
繪日傘	七七一三	九二三四	一〇三三七	一九四八五	四四九〇	五二七五	二二二〇	二九〇三九	二二五八三	二九三〇九
扇子及團扇	一六二七〇	四〇一三四	一五四七〇	三七七三	一〇八五四	三三〇〇	一六二〇〇	四二四六	一三八二五	五五三〇九
提燈	二三五〇	四一五九	二六一九	三五七五	二九四一〇	四六五〇	二九五〇〇	四六八〇	三四九〇〇	五六一九〇
紙手巾	一七五、〇〇〇	一三六四〇	一六八、〇〇〇	九〇、九四八	一三三、七五〇	八六、二〇七	二五、六五五	一一一、三三三	七四、八〇三	一〇三、六九八
計	—	九四〇、一七三	—	一〇四、五四〇	—	六六、三六二	—	一三五、〇四三	—	一〇三、〇九五

(二) 主要産地

雨傘ハ岐阜市、稻葉郡ヨリ産出多ク繪日傘、扇子、團扇、提燈、紙手巾ハ岐阜市ヨリ主トシテ産ス

(三) 沿革

雨傘製造ノ起原ハ今之レヲ詳ニセサルモ稻葉郡加納藩士ノ内職トシテ傘ヲ製造セシヲ以テ其ノ嚆矢トナスヲ得ン爾後

(四) 製造戸數及職工數(三十九年)

美濃傘ノ名世間ニ廣マリ以テ今日ニ至レリ繪日傘ハ明治十四年頃ヨリ創製セシ所ニシテ岐阜團扇及岐阜提燈ハ明治十二年頃ヨリ初メテ之ヲ製造シ紙「ナブキン」ノ製造ハ明治九年ノ創業ニシテ「ナブキン」製造ハ實ニ本邦ニ於ケル嚆矢ナリ何レモ創業以來逐年改良セラレ産額漸次増加シ以テ今日ニ至レリ

品名	家内		工場		市場		職業	
	戸數	職工數	戸數	職工數	戸數	職工數	戸數	職工數
雨傘	八二二	—	—	一、九五六	—	—	—	—
繪日傘	—	—	—	—	—	—	—	—
扇子及團扇	一六	—	—	一五四	—	—	—	—
提燈	—	—	—	九六	—	—	—	—
紙手巾	—	—	—	—	—	—	—	三〇

(五) 製産狀況

雨傘ハ年々其製産額ニ大ナル異動ナク漸次増加ノ有様ナリ繪日傘ハ全部輸出品ニシテ産額亦年々増加セリ扇子ノ製造ハ甚タ微々タルモノニシテ團扇ノ製造セラレ居レリ提燈ハ岐阜ノ名産トシテ洽テ世ノ知ル所ニシテ年々需要ヲ進メ産額益々増加セリ紙手巾ノ需要ハ近時内、外共ニ増加シ近來本品ノ製造ハ著シク盛況ヲ呈セリ

(六) 原料ノ需要供給

雨傘、繪日傘其他ノ原料タル紙ハ一部ニ使用スル洋紙ヲ除ク外ハ全部縣下生産ノモノヲ用ユ竹モ亦縣下ニ産スルモノヲ用フ

(七) 製産費及收益ノ比較

岐阜縣



種別	品名	製造費															
		數價	賣價	紙摺	摸樣	繪具	油竹	骨竹	張手	判木	仕立	紙縮	金具	繪付	其	他	差引
雨傘	繪日傘	一〇〇	五〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇〇
扇子及團扇	提	一〇〇	七〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇〇
燈	紙手巾	一〇〇	一六〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇〇

(八) 販出額及仕向地

(イ) 販出額

本品ハ大部ヲ縣外ニ販出ス今最近五ケ年間ニ於ケル販出額ヲ内、外向ニ區別シ表示スレハ左ノ如シ

品目	年次	内 國 向				外 國 向			
		傘	扇	燈	紙手巾	傘	扇	燈	紙手巾
合 計	三十九年	二、八四三、四四	二、六五〇、〇〇	一、〇二二、九〇	一、七〇〇、〇〇	七、五八五、五五	二〇、三九九、九〇	七、五八五、五五	二〇、三九九、九〇
	三十八年	三、三〇一、〇二	三、八七五、〇二	四、四〇四、〇〇	一、六、九七	三、四三三、五八	二、一三三、〇〇	三、四三三、五八	二、一三三、〇〇
	三十七年	一、三三二、七〇	三、七四〇、九六	四、四六、四六	三、八〇二	五、八三三、七〇	八、六一一	四、四二一、六	四、四二一、六
	三十六年	二、二五二、〇四	六、〇七、八〇	六、九、五八	一、六、〇〇	五、二六八、〇〇	九、〇五〇	六、九、五八	九、〇五〇
	三十五年	一、八一九、五二	五、七二、六九	六、四四、五八	一、六、〇五	五、八二七、五〇	二、三六四	六、四四、五八	二、三六四

品目	年次	雨傘		繪日傘		團扇	
		價額	數量	價額	數量	價額	數量
岐阜縣	三十九年	五、七三、三九	一、〇〇〇	一、七八、六〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	三十八年	五、〇〇、〇〇	一、〇〇〇	一、五〇、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	三十七年	二、〇〇、〇〇	一、〇〇〇	四、四九、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	三十六年	三、五〇、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇、七五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	三十五年	二、五〇、〇〇	一、〇〇〇	七、七二、二〇	一、〇〇〇	九、一、四八	一、〇〇〇

提燈	數量		價額	仕向地	價額	仕向地	價額
	數量	價額					
紙手巾	數量	價額	三六、八三五	大阪、神戸、横濱ヲ經由セリ	一七五、〇〇〇	米各國并ニ滿、韓地方ニモ輸出ス而シテ是等	一三六、四八〇
	價額	數量	三九、〇九〇		二八、〇〇〇		二七、九二二
合計	數量	價額	三六、二六五	大阪、神戸、横濱ヲ經由セリ	一七五、〇〇〇	米各國并ニ滿、韓地方ニモ輸出ス而シテ是等	一三六、四八〇
	價額	數量	三九、〇九〇		二八、〇〇〇		二七、九二二
合計			三九、〇九〇	大阪、神戸、横濱ヲ經由セリ	一七五、〇〇〇	米各國并ニ滿、韓地方ニモ輸出ス而シテ是等	一三六、四八〇

(V) 仕向地

雨傘、團扇、提燈ハ内國各地ニ販出ス  
 繪日傘、提燈、紙手巾ノ外國仕向地ハ主トシテ米國ニシテ其他歐、米各國并ニ滿、韓地方ニモ輸出ス而シテ是等  
 輸出品ハ大阪、神戸、横濱ヲ經由セリ

(九) 販賣手續及取引慣習

内地向ハ製造家ヨリ直接各地ノ商人ニ卸賣ヲ爲スモノト地方ノ買辦商ヲ經テ賣却スルモノトアリ外國輸出ハ滿、韓へ  
 ハ直輸出ヲ爲スモ其他ハ大阪、神戸、横濱等ノ貿易商ノ手ヲ經ルヲ普通トス

(十) 相場

雨傘	團扇	繪日傘	扇子及團扇	提燈	紙手巾
百本	同	同	同	百個	一萬枚
自二十圓至二百圓	自十圓至三十圓	自七圓至十五圓	自三十圓至二百圓	自十七圓至三十圓	

(十一) 輸出先ノ嗜好并ニ其變遷

繪日傘、提燈、紙手巾、團扇ノ繪模様ニ付テハ國ニ依リ異ナレトモ色合ハ米國向ニ在テハ赤色ノ華美ナルモノニシテ  
 價格ノ比較的安キモノヲ好ミ英國ハ日本風ニシテ水色ノ高尙ナルモノナレハ價格ノ高キハ厭ハサルカ如シ獨逸向モ亦  
 英國向ニ類似セリト云フ概シテ模様ハ山水、草花ヲ好ムカ如シ

(十二) 輸出先ニ於ケル用途并ニ需要者ノ階級

雨傘、團扇ハ一般ニ用ヒラル提燈、繪日傘ハ歐、米各國ニ於テハ主トシテ室内裝飾用トシテ需要者ハ中流以上ナリト  
 云フ紙手巾ハ本縣産ハ品質良好ニシテ價格亦高キカ故ニ歐、米ニ於ケル需用者ハ何レモ中流以上ナリト傳ヘラル

(十三) 荷造法及其費用并ニ運賃諸費

雨傘ハ紙袋ニ入レ八十本乃至百本ヲ箱(杉製六分板)詰トナス此費用一個ニ付五十錢内外ヲ要ス  
 繪日傘ハ二百本ツ、椀八分板製ノ箱ニ入ル此荷造費一箱ニ付一圓内外ナリ  
 紙手巾ハ千枚ツ、厚紙ニテ包ミ之ヲ三十包(三萬枚)ヲ一括シ上下ニ板ヲ當テ蓋ニテ包ミ之ヲ一捆ト稱ス此荷造費約九  
 十錢内外トス

提燈ハ一個ツ、紙ノ袋ニ入レ二百個乃至三百個ヲ杉六分板ニテ作リタル箱ニ入ル此費用一箱ニ付一圓四十錢乃至二圓  
 ツ要ス

(十四) 販出先ニ於ケル代用品及競争品

紙手巾ハ獨逸、米國ニ於テ西洋紙ヲ以テ下等品ヲ製造シ價格ヒ本邦品ニ比シ甚タ廉ナルカ故ニ下流ニ需要多キモ紙質  
 粗ナル爲メ上流ニテハ主ニ本邦品ヲ使用スルヲ以テ兩者ノ間ニ著シキ競争ナシ雨傘、繪日傘等ニアリテハ特ニ記スヘ  
 キコトナシ

(十五) 主ナル製造者

岐阜縣

品名	住所	製造者氏名
繪日傘、提灯、團扇、紙手巾	岐阜市	勅使河原直治郎
提灯、紙手巾	同	武井助右衛門
紙手巾	武儀郡上有知町	須田清英
提灯、團扇	岐阜市	後藤米太郎
同	同	尾間治七
同	同	泉善七
同	同	村瀬榮次郎
同	同	杉山新一郎
雨傘	同	篠田治八
同	同	篠田治七
同	同	篠田忠八
同	同	中島幸太郎
同	同	中島太郎
同	同	森與兵衛
同	同	赤塚源八
同	同	稻葉郡加納町

(七) 絹製品及刺繡

(一) 産額

三十八年

一七二、七八四圓

備考 三十八年以前ニアリテハ詳カナラス

(二) 種類

手巾絹製品、相良縫

(三) 主要産地

岐阜市

安八郡

(四) 製造戸數及職工數(三十九年)

製造戸數

三一戸

職工數(男)

五八七人

合計

五八八人

(五) 製産状況

本業ハ總テ家内工業ニ屬シ明治二十四、五年頃ヨリノ創業ニ係レリ而シテ手巾ハ羽二重ニ草花等ノ模様ヲ刺繡シタル

モノ多ク産シ相良縫ハ頭髮用具、紙入、糞物等ノ類ニ縫ヲ施セルモノ多シ近來職工缺乏ノタメ稍々衰退ノ兆アリ

(六) 原料ノ需要供給

手巾、絹製品ノ原料ハ羽二重ニシテ相良縫ハ縮緬ナリ何レモ縣下ノ製産品ヲ以テ之ニ充ツ

(七) 製産費及收益ノ比較

概シテ賣價ノ三分ハ原料代ニシテ工賃ハ六分ヲ要シ一分ヲ收益トス

(八) 販出額仕向地及販賣手續

手巾ハ總テ外國向ニシテ産額ノ全部ヲ輸出シ其他ノモノハ内地用タリ輸出先ハ米國ニシテ多ク横濱、神戸港ノ商會ト取引シ内地用品ハ全國至ル處ノ小間物問屋ト取引スルモ就中博多尤モ多ク金澤、熊本ノ地方之ニ亞ケリ

四百

(九) 主ナル製造者

岐阜市扇町 伴 島 久 次 郎  
同 合資會社相良商會

(八) 打 双 物

(一) 産 額	年 次	數 量	價 額
	三十五年	一、六八一、六八〇	七七、九九二
	三十六年	?	五六、八三四
	三十七年	六四〇、七二五	七一、一七七
	三十八年	一二三、九九九	七一、八〇九
	三十九年	八九八、一三二	九九、二七五

(三) 種 類

刀劍、ナイフ、文房具、錐、鋏、鎌、庖刀ノ類

(三) 主 要 産 地

武儀郡、稻葉郡、加茂郡

(四) 沿 革

主産地武儀郡關町ハ古來及物ノ名産地タリ今其起源ヲ釋スルニ弘長年間九州ノ人元重ト稱スルモノ諸國ヲ巡歴シテ美濃ノ關ニ來リ字向山ト稱スル地ニ全國無比ノ燒及土アルコトヲ發見シ此地ニ永住シテ刀劍鍛冶業ヲ創ム是關鍛冶ノ元祖ナリ其子金重業ヲ繼キ年八十八ニ及ヒ相州鎌倉ニ到リ古今ノ名匠タル正宗ノ門ニ入り千辛萬苦シテ其秘術ヲ知得シ終ニ十哲ノ一人トナリ關ニ歸リテ鍛工ノ徒ヲ獎勵シ大ニ斯業ノ進歩ヲ促セリ

三世金行、四代包永(包永ハ生國大和手搔ノ人ニシテ金行ノ一女子ニ入婿シ己レ藤原姓ニシテ鎌足公ノ末孫ナルヲ以テ鎌ノ片割ヲ取り包ヲ兼ト改メタリ之ヲ關兼ノ始トス) 皆名工タリ其後統派七ツニ分レ善定、奈良、三阿彌得印、徳永、良賢、室屋ノ各派ハ互ニ其精工ヲ競ヒ技大ニ進歩シ志津三郎兼氏及兼元、兼定、等ノ名匠輩出シ特ニ兼定ノ如キハ全國總鍛冶受領ノ始祖ニシテ和泉守ノ稱ヲ賜ハレリ後慶長年間ニ至リ關ヶ原ノ役徳川氏所屬ノ大小名ヨリ多ク刀劍ノ製造ヲ囑セラル、ニ及ヒ關鍛冶ノ名聲ハ古ヘニ倍シ斯業ハ著シク盛大トナレリ政權徳川氏ニ移リ義直公ノ尾州(名古屋)ニ封セラル、ニ及ンテ關鍛冶ノ名匠元重ノ末葉其他二百餘名ヲ名古屋ニ召サレ地ヲ賜ヒ移住セシメラル爾來關町ニ於ケル刀劍ノ製造ハ漸次衰退ニ傾キ庖丁、鎌、鋏、錐等ノ如キモノ、製造ヲナスモノ増加シ殊ニ維新以來一般ニ帶刀ヲ禁セラレ刀劍ノ需要俄ニ減シタルヲ以テ今日ニ於テハ其産出ハ極メテ僅少トナリ殆ント普通及物ノ製造ヲナスニ止マレリ

(五) 製造戸數及職工數(三十九年)

製造戸數 四〇〇戸  
職工數 九五〇人  
岐阜縣

(六) 製産状況

本品ノ製造ハ家内工業ニシテ主トシテ普通及物類ノ製造ヲナセリト雖モ日露戦争中刀劍ノ製造盛ンニシテ戦後之レカ  
動機トナリテ滿、韓地方ニ販路開ケ前途益々有望トナレリ

(七) 原料ノ需要供給

内地産ノ鋼鐵ハ伯耆、出雲地方ヨリ供給ヲ受ケ洋鋼鐵ハ神戸港ヲ經テ之レヲ購求シ居レリ

(八) 製産及收益ノ比較

賣價ノ約四分ハ原料代ニシテ製造費亦四分ヲ要シ餘ノ二分ハ純益ナリト云フ

(九) 販出額及仕向地

内國向平均三萬三千圓、外國向約四萬圓ニシテ内地向ハ主トシテ三府ニ販出セラレ外國向ハ大阪、神戸ヲ經テ滿、韓  
地方へ輸出ス

(十) 販賣手續及取引慣習

製品ハ製造者ヨリ武儀郡關町商人ニ販賣シ夫レヨリ仕向地ノ金物問屋へ卸賣トナスヲ例トス

(十一) 相場

軍	刀	一口	三圓ヨリ十圓マテ
ナイフ	一打	二圓ヨリ五圓マテ	
鎌	一打	一圓ヨリ二圓マテ	
鋏	一打	二圓ヨリ三圓マテ	
庖丁	十挺	二圓ヨリ五圓マテ	

(十二) 荷造法並ニ其費用

製品ノ摩擦ヲ避クルタメ厚紙ニテ包ミ堅牢ナル木製ノ箱ニ入ル其費用ハ種類ニモ依リ兩ノ容積ニ大小アルヲ以テ一定  
セサルモ一個平均五六十錢ヲ要スト云フ

(十三) 長所、缺點並ニ改良スヘキ要點

燒及ノ技ハ全國ニ誇ル所ナルモ燒及ヲナシタル上更ニ電氣鍍金ヲ施スコト最モ急務トス

(十四) 主ナル製造者及取扱商店

刀	劍	武儀郡關町	小坂道孝
ナイフ其他	同	佐藤久八	號兼吉
同	同	後藤治兵衛	
同	同	遠藤芝三郎	
同	同	小坂金兵衛	
取扱商店		湯淺七右衛門	
東京市日本橋區		岡本宗助支店	
大阪市			

(九) 柳行李

(一) 産額

岐阜縣

年次	數量	價額
三十五年	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇
三十六年	四四、〇一二	二八、〇一〇
三十七年	五八、七七五	三七、二八〇
三十八年	六一、七三〇	四五、九五二
三十九年	一七九、八八〇	五九、二八三

- (二) 種類 李 袍
- (三) 主要産地 本巢郡
- (四) 沿革

明治二十二年本巢郡生津村西堀彌市柳行李製造地タル但馬國城崎郡役所ヲ經テ杞柳苗木ヲ購求シテ之ヲ栽培シタルニ良好ノ結果ヲ得タルヲ以テ二十六年始メテ行李製造ニ着手シ但馬ヨリ職工ヲ雇入レ傳習場ヲ設ケテ職工ヲ養成シ事業ノ發展ニ努メタリシ爲メ漸次盛大トナリ今日ニ至レリ

(五) 製造戸數及職工數(三十九年)

家内作業	七七戸
職工數	九八人
工場作業	三個

職工數

七〇人

(六) 製産狀況

本業ノ創始以來漸次製造方法ヲ改良シ販路擴張ヲ圖リタルヲ以テ逐年盛大トナリ三十五年ト三十九年ノ産額ヲ比較スルトキハ二割以上ノ増加ヲ示シ前途尙發達ノ趨勢ニアリ

(七) 原料ノ需要供給

本巢郡、稻葉郡ノ南部ハ杞柳栽培ニ適セル地多ク收益モ亦少ナカラス今三十六年以來ノ作付反別及産額ヲ掲クレハ左ノ如シ

年次	作付反別	産額
三十六年	四一、六	三一、二二二
三十七年	四六、三	三九、〇二七
三十八年	八一、八	四三、三六四
三十九年	一四〇、八	七三、二一六

前表ノ如ク三十六年ト三十九年ト比較スルトキハ二倍以上ノ増加ナリ如斯増加セシヲ以テ原料豊富ナルカ如シト雖之等ノ原料ハ但馬地方ニ盛シニ輸出スルヲ以テ過剩ヲ生スルカ如キコトナク常ニ不足ヲ感スル有様ナリ然レトモ之カ栽培地方尙充分ノ餘裕アリテ今後其生産益々増加スルニ至ルヘシ

(八) 製産費及收益比較

製品ノ種類多キヲ以テ茲ニ之ヲ明記シ難キモ原料代ハ賣價ノ約五分製産費四分收益一分ノ割合ナリト云フ

(九) 販出額及仕向地

岐阜縣

製品ノ約六分ハ内地向ニシテ四分ハ外國向トシテ大阪、京都、神戸、横濱、東京其他内地各地ニ販出セラル

(十) 販賣手續及取引慣習

製品ハ東京、横濱、京都、大阪、神戸等及各地ノ商人ニ販賣シ夫レヨリ内地各地及外國へ輸出セラル

(十一) 相場

製品ニ依リ一定シ難シト雖モ大約左ノ如シ

行	李	十個ニ付	八圓ヨリ三十圓マテ
靴	形		十五圓ヨリ五十圓マテ

(十二) 荷造法及其費用

大ナルモノハ二、三個小ナルモノ十數個ヲ一括シ筵ニテ包ム荷造費一捆(一括)ニ付五十錢乃至一圓ヲ要ス

(十三) 販出先ニ於ケル代用品及競争品

代用品トシテハ竹製行李アルモ品位柳製ニ劣ルカ故ニ恐ル、ニ足ラス然レトモ獨逸製「トランク」ハ金具堅牢各所ノ縫合モ親切丁寧ナルニ付價格ハ高價ナルニモ拘ハラス歐、米人ノ間ニ需要多シト云フ

(十四) 長所缺點並ニ改良スヘキ要點

賣レ行キノ好況ニ伴ヒ粗造ニ流レ堅牢ナラス左記ノ諸點ハ速ニ改良スルヲ要ス

- 一、原料ヲ精選スルコト
- 一、編系ヲ強靱ニスルコト
- 一、各所ノ接續點ヲ完全ナラシムルコト
- 一、金具ヲ堅固ニスルコト

一、其他一般ニ親切丁寧ニ作ルコト

(十五) 主ナル製造者及取扱商店

製造者	本巢郡生津村	西堀
	同	加藤
	同	井上
	同	高木
	同	白木
	同	鷺見
取扱商店	大阪市博勞町	服部商店
	同	三ノ宮町
	横濱市辨天通	服部支店
	東京市日本橋區西川岸	小川行
		李會社

(十) 漆器

(二) 産額

年次

産額

岐阜縣

三十五年	二九、一三九
三十六年	三四、三〇八
三十七年	三三、八六四
三十八年	三八、〇一八
三十九年	四八、七九三

(二) 種類

膳類	盆類	重箱	菓子器	文臺
冠臺	香棚	書棚	卓類	茶器等

(三) 主要産地

大野郡

(四) 沿革

本縣ニ於ケル漆器工業ハ甚タ古クヨリ行ハレシモノ、如ク聖武天皇天平十三年ノ建立ニ係ル全光明四天皇護國之寺門陣ノ金光燦爛タル遺跡ヨリ考フルモ當時已ニ飛驒ニ漆法ヲ傳ヘタルハ疑フ可カラサルノ事蹟ナリトス其後幾多ノ星霜ヲ經テ金森長近子可重ト共ニ織田氏、豊臣氏ニ仕ヘテ功アリ飛驒國ニ封セラル、ニ及ヒ文學、交通其他各種工業ノ發達著シキモノアリ時ニ近習成田三右衛門正武ナル者漆器ノ道ニ精熟シ終ニ一新機軸ヲ出ス其色淡黄ニシテ木質鮮明他ニ類似セルモノナシ藩公大ニ喜ヒ其色澤透明非凡ニシテ能ク飛春慶ニ酷似セルノ故ヲ以テ春慶ト名付ケ給フ(往古順德天皇ノ御宇加藤四郎左衛門景正ナル者僧道元ニ從ヒ支那ニ行キ陶法ヲ學ヒ貞安元年歸朝シ別號ヲ春慶ト云フ當時冷思ヲ出シ一種ノ茶壺ヲ製ス名付テ春慶ノ茶壺ト云フ質茶稿ニシテ飛點ノ黄良釉ヲ施セシモノナリ因テ飛春慶ト云フ其

名聲貴紳ニ傳ハリ其器又大ニ秘藏セラル、ニ至ル) 其後會々國司工ヲ起シ諸寺ヲ造營ス高橋喜右衛門ナル者之カ棟梁、タリシカ良材ニ富メル飛國ニシテ其經營又周到ナリキ故ニ良材ヲ精選シ是レヲ打割柱梁ヲ造ルニ當リ批目現ハレシヲ以テ漆器ニ之ヲ應用スルニ至レリ是レ打割批目ノ濫觴トス而シテ金森家由緒書及先祖書ニヨレハ可重ハ茶道ノ濫觴ヲ極メ常ニ御城御茶會ノ節ハ水屋詰ヲナシタリシカ慶長十七年壬子十月御口切ノ御料トシテ批目而桶片口漆木地ニ組雉子一掛ヲ榑工高橋喜右衛門、搦工成田正成ヲシテ作ラシメ之ヲ奉獻セラレタリト是レ實ニ批目春慶漆器ノ貴紳ニ見ヘタルノ始メニシテ風韻ニ富ミ大ニ貴顯ノ間ニ賞用セララル、ニ至レリ爾來成田家子弟相繼キ成田二休、同市郎兵衛、泉屋勘兵衛、藤田半四郎、同重平、長瀬道阿、桐本久五郎、鈴木利助等世々名工輩出シ益々進歩改善ヲ加ヘラレ春慶塗ノ名ハ沿ク海内ニ喧傳セラル、ニ至レリ又天保年間輪島屋儀平ナルモノ能登ヨリ飛驒ニ移住シ堅地漆器ヲ製出シ大ニ國內ノ需用ニ應シ徒弟ヲ養成シ盛ンニ製作セシカ蒔繪ノ技ナキヲ以テ福壽松齋ナルモノ金澤ニ遊ヒ研出シノ法ヲ研究シテ是レヲ傳ヘ後又谷正三郎ナルモノ京都ニ趣キ高蒔繪ヲ學ヒ歸國シテ其業ニ從事スルニ及ヒ單ニ春慶漆器ニ止マラス蒔繪漆器ヲモ製出シ以テ今日ニ至レリ

(五) 製造戸數及職工數(三十九年)

製造戸數	四六戸
職工數	一〇五人

(六) 製産狀況

本業ハ家内作業ニ屬シ主産地方ハ毎戸殆ント斯業ヲ營メリ近年製造高モ増加シ販路次第ニ擴張シ益々發展ノ域ニアリト雖モ交通不便ノタメ刺戟ヲ受クルコト少ナク形狀其他需要者ノ嗜好等ニ關シテハ常業者一般ニ冷淡ナルカ故ニ充分ノ發達ヲナスニ至ラス



(七) 原料ノ需要供給

原料タル木材ハ地方ニ極メテ豊富ニシテ漆汁モ亦地方産ノモノヲ用フ

(八) 販出額及仕向地

總テ内地向ニシテ販出先ハ主トシテ東京、京都地方ナリ

(九) 相場

膳類	十人前	三	圓ヨリ三十圓マテ
盆類	十枚	二圓五十錢ヨリ十五圓マテ	
書棚	一本	五	圓ヨリ五十圓マテ

(十) 荷造法及其費用

數個乃至十個ヲ木箱ニ入レ各地ニ送付ス此荷造費一個代五十錢乃至二圓ヲ要ス

(十一) 長所、缺點並ニ改良スヘキ要點

堅牢ナルハ本品ノ長所トスル所ナルモ優美ノ點少ナキヲ以テ將來ハ世人ノ嗜好ニ鑑ミ優美ナルモノヲ製造スルヲ必要トス

(十二) 主ナル製造者

大野郡高山町	福田吉郎兵衛
同	福崎瀧藏
同	福崎彌市
同	町田七三郎

大野郡高山町	町田吉大郎
同	水谷正三郎
同	加藤長平
同	住榮太郎
同	小島由太郎
同	折敷地春造

(土) 大理石細工品

(二) 産額	年次	産額
三十五年	三十五年	一五〇、〇四二
三十六年	三十六年	一五〇、〇四八
三十七年	三十七年	五〇、〇二八
三十八年	三十八年	三〇、〇〇〇
三十九年	三十九年	四〇、〇〇〇

(二) 種類	ストロボ臺	建築材料	電氣用石材	靴具	床置	文房具
	飲食器	擬珊瑚珠	緒	根掛	簪	玉其他婦人裝飾品等
	岐阜縣					

(三) 主要産地  
不破郡

(四) 沿革

大理石細工ノ起原ヲ繹ルニ今ヲ去ルコト八十餘年前即チ文政ノ初年ニ於テ彫刻ニ巧ミナル谷井ト云ヘルモノ或日大理石ノ一片ヲ以テ硯ヲ試刻シタルニ意ノ如ク出來上リタルヨリ爾後専ラ之ニ意ヲ用ヒ文鎮及ヒ動物類ノ模形等ヲ試製シテ販賣セシニ何レモ世人ノ賞讃ヲ得タリ茲ニ於テ谷井益々研究ヲ怠ラス種々ノ試験ヲ經テ白蠟ヲ流シ光澤ヲ研出スルノ理ヲ發見シ細工品ノ弊價ヲ發揚スルニ至リシヲ以テ俄カニ同業者八戸ヲ生シ石陽組ト稱ヘ硯、風鎮、文鎮、模造動物類ヲ彫刻シ店頭ニ陳列シテ販賣スルニ至レリ當時運輸ノ便惡シキヲ以テ諸國ニ販路ヲ擴ムルニ由ナク唯諸大小名ノ通行宿泊ニ際シ尠ナカラサル賣品アリテ漸次本業ノ盛運ニ向ヒ來リシカ維新ノ後ハ是等大小名ノ通行宿泊スルモノナキニ至リ一時非常ノ衰退ヲ招キシカ其後運輸機關ノ著シキ發達ト共ニ販路各地ニ啓ケ再ヒ盛運ニ向ヘリ是レヲ以テ同業者三十七名ハ此機ニ乘シ益々改良ノ必要ヲ覺リ差當リ粗製濫賣防止ノ目的ヲ以テ組合規約ヲ設ケ遂ニ明治十三年十一月中縣知事ノ認可ヲ得テ規約ヲ實行スルニ至レリ又谷井ノ發明ニ係ル蠟研キ光澤ハ變化シ易キニ依リ種々試験ノ上抱炭或ハ砥石ヲ用ヒ大理石天然ノ光澤ヲ研出スルノ理ヲ覺リ各種ノ製造ニ應用シタルニ其成績佳良ニシテ永世不變ノ光澤ヲ保タシムルヲ得且製品ノ種類モ「ストーブ」隱シノ如キ大ナルモノヲ製作スルニ至リ益々世ノ好評ヲ博シ以テ今日ニ至レリ

(五) 製造戸數及職工數 (三十九年)

製造戸數	一〇〇戸
職工數	二〇一人
男	五〇人
女	五〇人

合計

二五一人

(六) 製産狀況

本品ハ不破郡獨特ノ工産品ニシテ家内工業トシテ全家之ニ從事ス製品ノ多クハ裝飾用ニ屬スルヲ以テ戰爭當時ヨリ需要著シク減シ甚タ不振ナリシカ三十九年ニ入り稍恢復ノ兆ヲ呈シ來レリ

(七) 原料ノ需要供給

不破郡赤坂町ニ金生山ト稱スル一ノ山岳アリ原料ノ石材ハ此ノ山ヨリ採掘スルモノニシテ頗ル豊富タリ此原料タル石ハ他地方ヘ其儘販出スルコトモアリト云フ

(八) 製産費及收益ノ比較

賣價ニ對シ原料代ニ割内外、製造五割、收益三割内外ナリト云フ

(七) 酒類

(一) 産額	年次	數量	價額
	三十五年	七二、〇四〇	二、一一六、三九七
	三十六年	六四、〇一一	一、九二二、五二〇
	三十七年	六四、一六九	一、九〇九、六四二
	三十八年	四九、〇一六	一、五九四、二〇三
	三十九年	五七、七六九	一、九五九、二四八

岐阜縣

(二) 種類

清酒 燒酎 味噌

(三) 主要産地

縣下到ル所ニ産スルモ就中岐阜市及惠那、安八、可兒、武儀、不破郡最モ多シ

(四) 醸造戸數及職工數 (三十九年)

醸造戸數 三〇〇戸  
職工數 九九九人

(五) 製産狀況

日露戰爭以來需要減退ノ狀態ナリシカ最近ニ至リ稍順境ニ向ヘリ

(六) 原料ノ需要供給

原料米ハ全部本縣産出ノモノヲ用フ

(七) 製産費及收益ノ比較

最近一石ノ計算ハ概子左ノ如シ

造石税	製造費			原料代
	減量	雜費	職工賃	
金拾七圓	金參圓	金壹圓	金貳圓	金拾圓五拾錢

合計

賣價	金參拾參圓五拾錢
粕賣價	金參拾五圓
差引	金七拾錢
純益	金貳圓貳拾錢

(八) 販出額及仕向地

主トシテ縣内ノ需要ヲ充タスニ過キス

(九) 相場

一石ノ卸直段ハ平均上三十七圓、中三十五圓、下三十三圓

(十) 荷造法並ニ其費用

容器ハ樽ヲ用ヒ樽ヲ蓋ニテ包ミ繩掛ヲ爲ス其費用ハ凡ソ四斗樽一個ニ付一圓乃至一圓五十錢トス

(十一) 主ナル製造者

岐阜市上加納	大矢宇藏
加茂郡加治田村	金竹勝次郎
惠那郡長島町	可知淺右衛門
安八郡大垣町	三輪徳次郎
不破郡垂井町	細井金四郎
養老郡高田町	土屋八十郎

同 同  
大野郡高山町

山 田 良 造  
平 瀬 市 兵 衛

(十二) 事業上ノ施設

縣下各稅務署ノ區域ニ依リ一郡若クハ二、三郡ノ内ニテ酒造組合法ニ依リ組合ヲ設置シ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持シ併セテ釀造ノ改善ヲ圖レリ

(十三) 醬油及溜

(二) 產 額

年 次

數 量

價 額

三十五年

一七、四九五

二五二、四四四

三十六年

一七、九六八

二二二、九六八

三十七年

一九、〇一四

二四五、二五八

三十八年

二三、七七一

三四一、四八五

三十九年

二三、七九九

三八六、八三四

(二) 主要產地

稻葉郷、羽島郷、岐阜市、安八郡、加茂郡

(三) 釀造戸數及職工數 (三十九年)

釀造戸數

一、二〇四戸

職 工 數

九五二人

(四) 製 產 狀 況

本縣ニ於ケル醬油ノ製造ハ主トシテ稻葉、羽島ノ二郡ニシテ年々產額ヲ増加シ漸次發達ノ傾向ニアリ

(五) 原料ノ需要供給

原料大豆ハ縣下生産ノモノヲ多用フルモ清國產、北海道產等モ共ニ多少使用セリ鹽ハ伊勢、三河產ノモノヲ用フ

(六) 販出額及仕向地

主トシテ縣下ニ需要セラル、モ三重、愛知、滋賀等へ多少ノ販出アリ

(七) 相 場

明治三十八年ニ於ケル平均相場ハ壹石ニ付拾貳圓乃至拾五圓ナリ

(八) 主ナル製造者

稻葉郡南長森村	柳 原 五 右 衛 門
羽島郡笠松町	杉 山 市 右 衛 門
同 同	高 木 吉 五 郎
岐阜市中竹屋町	高 橋 善 左 衛 門
安八郡大垣町	守 屋 孫 八

(十四) 麥 粉

(二) 產 額

岐阜縣

年次	數量	價額
三十八年	一、九七七、六八二 <small>石</small>	一三〇、七二五 <small>圓</small>
三十九年	二、一八〇、〇六五	一四三、六八七

備考 三十八年以前ハ詳カナラス

(二) 主要産地

岐阜市、土岐郡、武儀郡

(三) 製造戸數及職工數 (三十九年)

製造戸數 四八七戸  
職工數 五九四人

(四) 製産狀況

專業者少ナク多クハ農家ノ副業ニ屬シ小規模ノ水車作業ニ依ルモノニシテ年々多少ノ進歩ヲナシツ、アリ

(五) 原料ノ需要供給

原料小麦ハ殆ント縣内ニ生産スルモノナルモ僅カニ外國産ヲ用フ

(六) 仕向地

主トシ縣内ノ需要ヲ充タスニ過キサレモ近接府縣へ販出スルモノ多少アリ

(七) 相場

三十八年中ニ於ケル平均一斤ノ卸直段ハ六錢内外ナリ

(五) 素麵及干饅飩

(一) 産額	年次	數量	價額
	三十八年	一六九、五一八 <small>圓</small>	八五、〇六七 <small>圓</small>
	三十九年	二七一、八三四	一四二、〇五九

備考 三十八年以前ニアリテハ統計詳カナラス

(二) 主要産地

加茂郡、土岐郡、可兒郡、揖斐郡、安八郡

(三) 製造戸數及職工數 (三十九年)

製造戸數 一六三戸  
職工數 三三六人

(四) 製産狀況

專業者ハ極メテ少ク多クハ農家ノ副業トシテ製産シ年々格別ノ消長ナシ

(五) 原料ノ需要供給

原料麥粉ハ縣下産ノミヲ使用シ他地方ヨリ輸入セサルモノ、如シ

(六) 仕向地

主トシテ縣内ニ需要セラレ僅カニ附近他縣ニ販出ス

(七) 相場

明治三十八年中ニ於ケル平均相場ハ素麵ハ一斤拾錢干鰯鮓ハ一斤八錢内外トス

(其) 石灰

(一) 産額	年次	數量	價額
	三十五年	二一、八八九、二六七	三三三、二九一
	三十六年	二一、二〇一、五〇六	二八六、〇七一
	三十七年	一一、五九〇、六七〇	三三三、五〇一
	三十八年	二一、〇八八、七六八	三五七、八五二
	三十九年	二三、九三七、四〇五	二九八、二六四

(二) 主要産地

不破郡、揖斐郡、本巢郡、武儀郡

(三) 製造戸數及職工數

(三十九年)

製造戸數 三二二戸  
職工數 六五六人

(四) 製産狀況

本業ハ不破郡最モ盛ニシテ近時建築用又ハ肥料用トシテ各地ヨリ注文多ク殆ント之ニ應シ得サルカ如キ狀況ナリ

(五) 原料ノ需要供給

産地一帯悉ク原料石ヲ出シ殆ント無盡蔵ナリト云フ

(六) 製産費及收益ノ比較

本品八十貫目ニ對スル計算大約左ノ如シ

收入	支出	利益
一金壹圓	石炭及原石代	
	人夫賃	
	一金七十錢	
	一金二十錢	
	計九十錢	
	差引	
	金拾錢	

(七) 販出額及仕向地

不破郡以外ノ地ニテ製産スルモノハ縣内附近ノ肥料ニ供給シ不破郡ヨリ産スルモノハ産額ノ約八分ハ愛知、三重、滋賀、福井、石川、富山、京都、大阪、奈良、兵庫ノ各府縣ニ販出セリ

(八) 販賣手續及取引慣習

各地ニ於ケル仲買人ト直取引ヲナシ多クハ月末精算ヲナスノ例ナリ

(九) 相場

岐阜縣

壹圓ニ付七十五貫目位トス

四百二十二

(十) 荷造法其費用并ニ運賃

俵造トナシ別段ノ荷造ヲ爲サス荷車又ハ船ニテ停車場所在地ニ送り汽車ニ積込ムモノニシテ一噸ニ付一哩金貳錢五厘トス但北陸線中武生、富山間及大阪、高槻、茨木ニ至ルモノニ限リ百哩以上壹錢八厘、百五十哩以上壹錢五厘ノ割合ニシテ外ニ發着手数料貳拾錢、積込手数料貳拾錢、積卸手数料拾五錢ヲ要ス

(十一) 主ナル製造者

不破郡赤坂町

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

上	田	治	一
渡	邊	仁	三
河	合	嘉	吉
戸	倉	久	吉
古	田	安	太
日	比	安	吉

(十二) 事業上ノ施設

主産地方ニハ同業組合設置セラレ粗製濫造ヲ防遏シ信用ノ失墜ヲ防カンタメ製品ノ検査ヲ勵行シ居レリ

明治四十一年十二月十一日印刷  
明治四十一年十二月十五日發行

### 農商務省商工局

東京市京橋區瀧山町六七番地

印刷者 小川 邦 孝

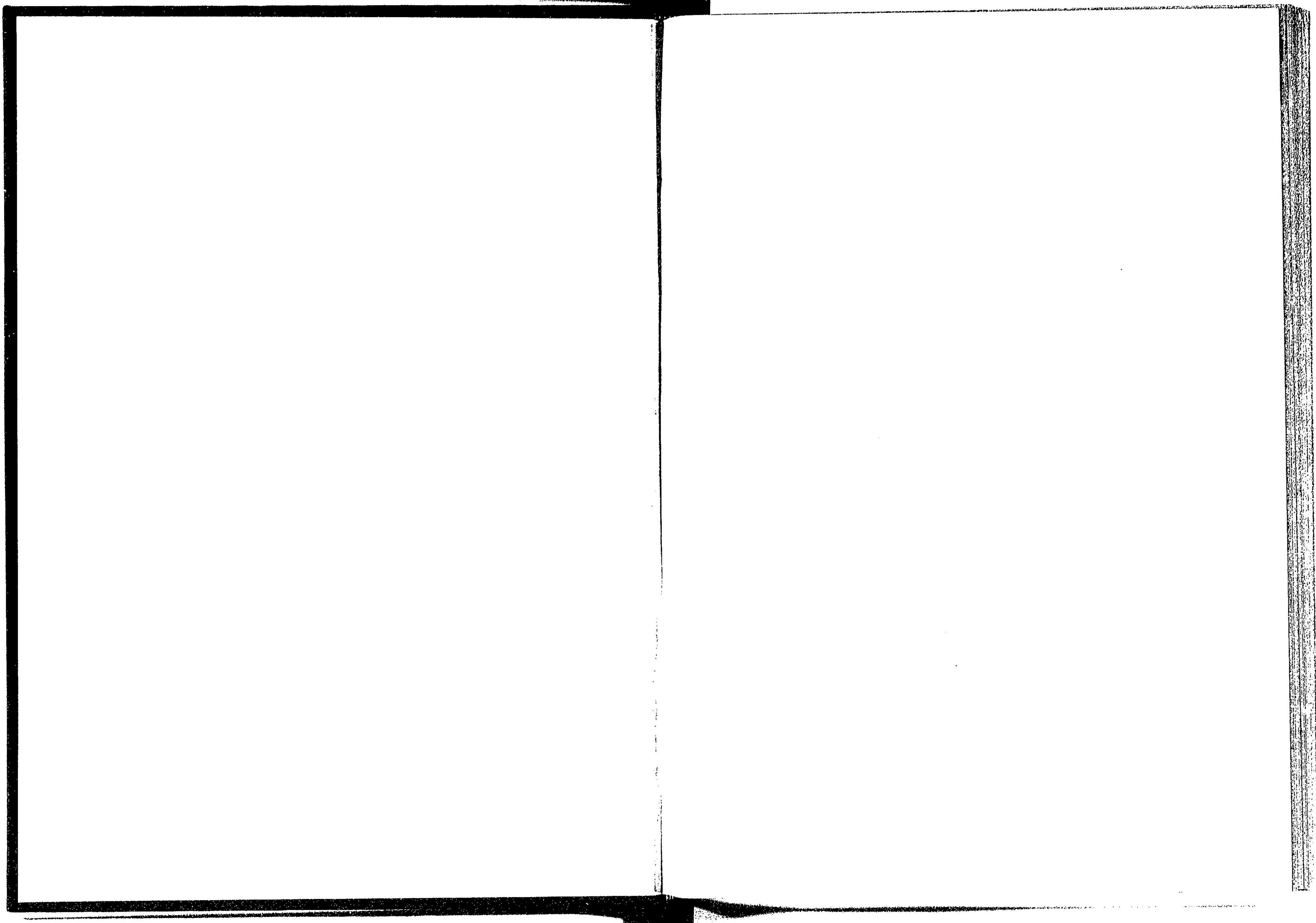
東京市京橋區瀧山町六七番地

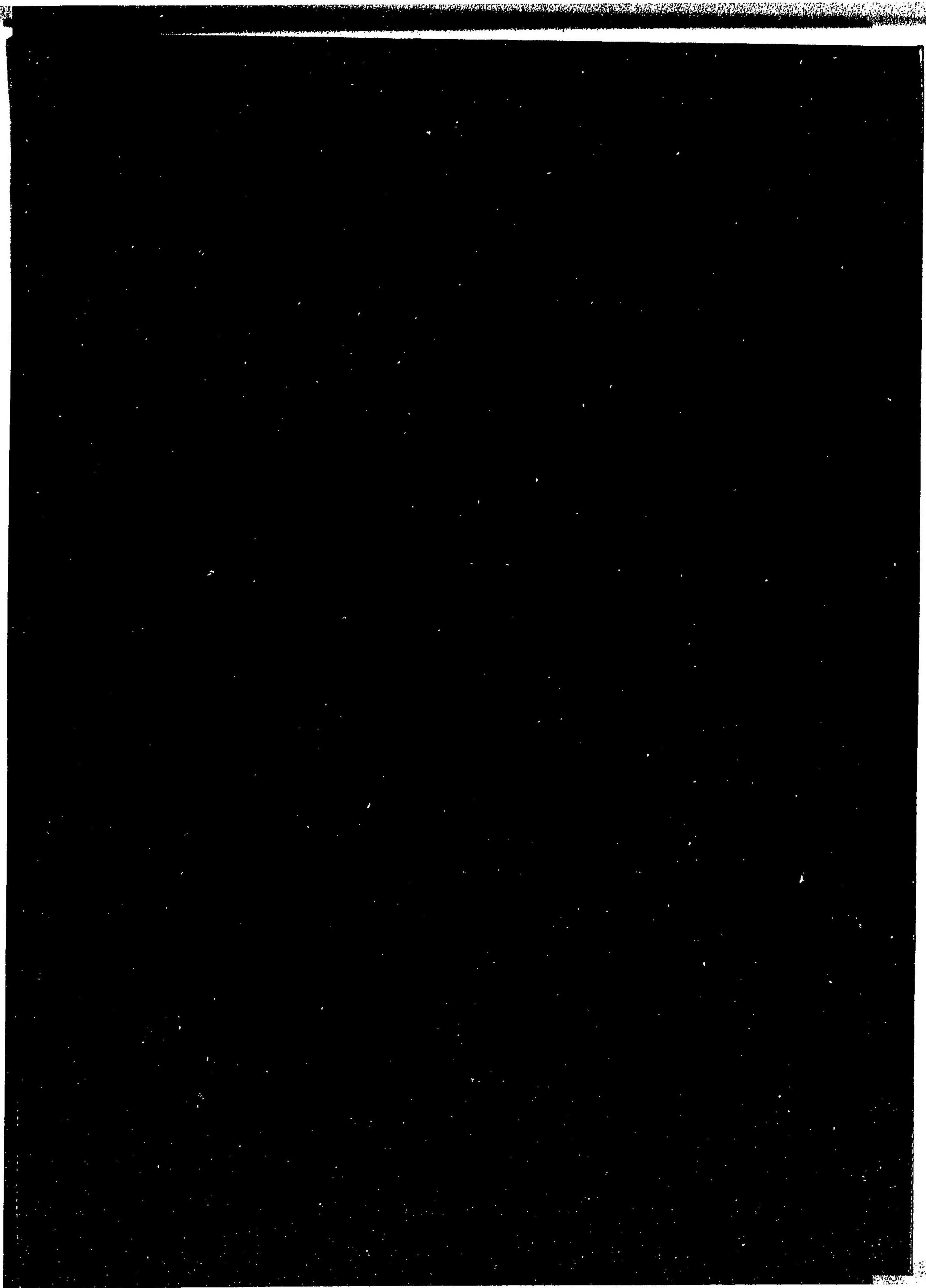
印刷所 東京製本合資會社

電話新橋 (七九五番) 三九四一番  
(四九三七番)

IT 605/3







321

42

